

平成26年度

全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

千葉市教育委員会

千葉市の児童生徒の調査結果について公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、各学校では日常の教育活動を多角的に評価・分析した結果と合わせて、学校教育活動の改善に努めております。

1 調査の概要

- (1) 調査実施日 平成26年4月22日（火）
 (2) 調査対象 小学校6年生、中学校3年生
 (3) 調査内容 国語 A問題（主として知識）、B問題（主として活用）
 算数・数学 A問題（主として知識）、B問題（主として活用）
 質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習習慣、生活習慣等）

2 学年・教科別結果概要

（本年度と悉皆調査実施年度との比較）

- (1) 全国・千葉県・大都市の平均正答率（％）と千葉市全体の結果

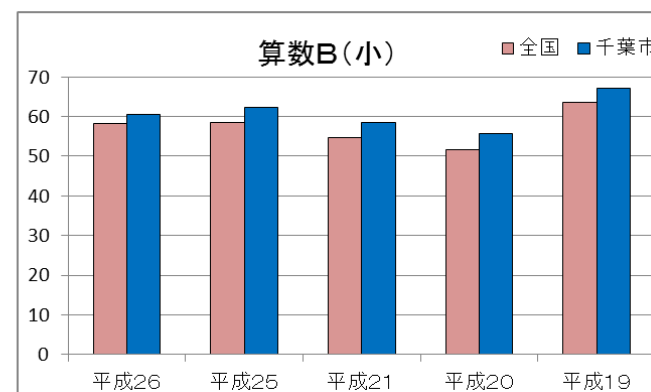
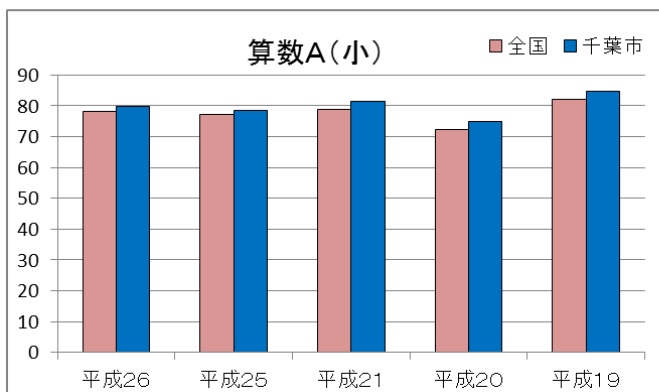
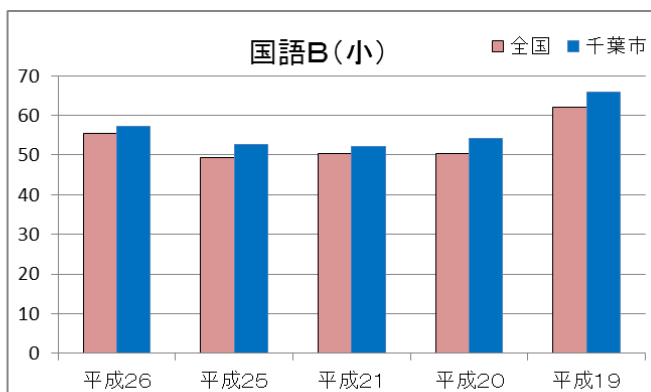
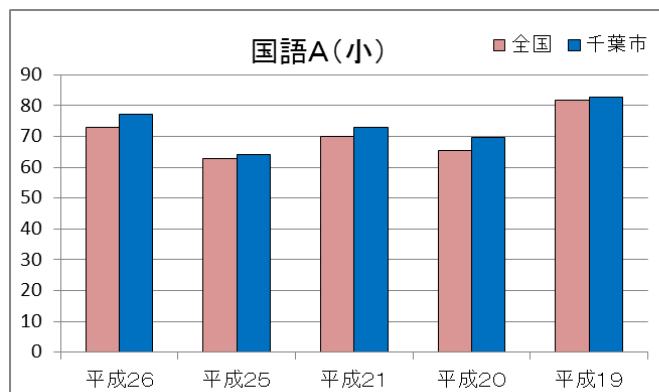
【資料1】問題別平均正答率一覧（％）[全国・千葉県・大都市・千葉市]＜平成19～本年度＞

			「知識」に関するA問題					「活用」に関するB問題				
			全国 平均 正答率	千葉県 平均 正答率	大都市 平均 正答率	千葉市 平均 正答率	全国平均 との 比較	全国 平均 正答率	千葉県 平均 正答率	大都市 平均 正答率	千葉市 平均 正答率	全国平均 との 比較
小学校	国語	平成26	72.9	75.8	73.3	77.1	+4.2	55.5	55.5	56.3	57.3	+1.8
		平成25	62.7	61.9	63.4	64.2	+1.5	49.4	50.1	50.9	52.6	+3.2
		平成21	69.9	71	70.5	72.8	+2.9	50.5	51.3	52.1	52.1	+1.6
		平成20	65.4	66.7	66.5	69.6	+4.2	50.5	51.4	52.1	54.1	+3.6
		平成19	81.7	82.2	82.2	82.8	+1.1	62	64	64	66	+4.0
	算数	平成26	78.1	78.2	78.3	79.8	+1.7	58.2	58.8	59.6	60.6	+2.4
		平成25	77.2	77.1	77.5	78.5	+1.3	58.4	59.4	59.8	62.3	+3.9
		平成21	78.7	79.8	79.3	81.6	+2.9	54.8	56.3	56.7	58.6	+3.8
		平成20	72.2	72.8	72.8	75	+2.8	51.6	53.2	53.4	55.7	+4.1
		平成19	82.1	83.2	82.6	84.7	+2.6	63.6	65	64.3	67.1	+3.5
中学校	国語	平成26	79.4	79.8	79.5	80.7	+1.3	51	51.7	51.5	53	+2.0
		平成25	76.4	76.2	76.5	77.7	+1.3	67.4	68.1	68	70.7	+3.3
		平成21	77	76.8	76.7	78.5	+1.5	74.5	74.6	73.9	76.7	+2.2
		平成20	73.8	72.8	73.6	74.3	+0.7	60.8	61.8	61.3	63.2	+2.4
		平成19	81.6	81.6	81.6	82.7	+1.1	72	72	72	74	+2.0
	数学	平成26	67.4	66.7	67.7	68.3	+0.9	59.8	60.1	60.9	61.6	+1.8
		平成25	63.7	63.2	64.2	65.7	+2.0	41.5	41.5	42.5	45	+3.5
		平成21	62.7	61.6	63.1	64.1	+1.4	56.9	56.7	57.3	59.8	+2.9
		平成20	63.1	61.7	63.5	63.4	+0.3	49.2	49.1	49.6	51.3	+2.1
		平成19	71.9	70	71.9	72.2	+0.3	60.6	60	60.6	62.9	+2.3

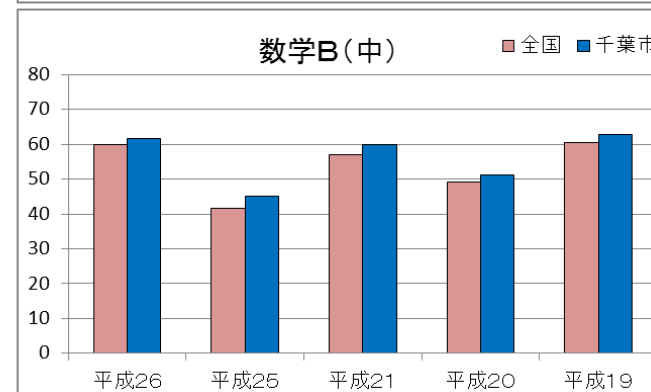
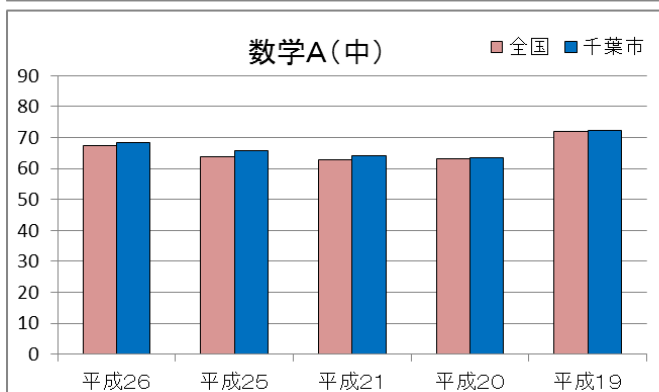
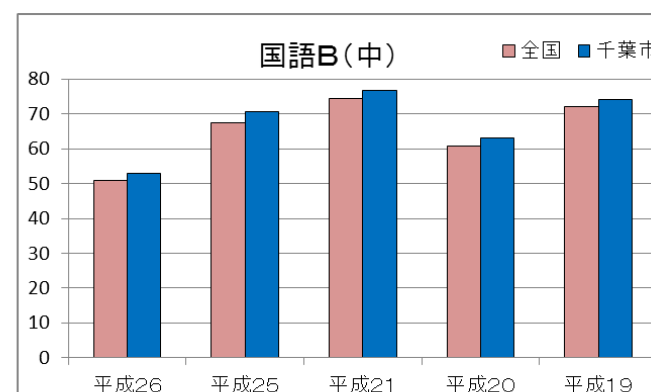
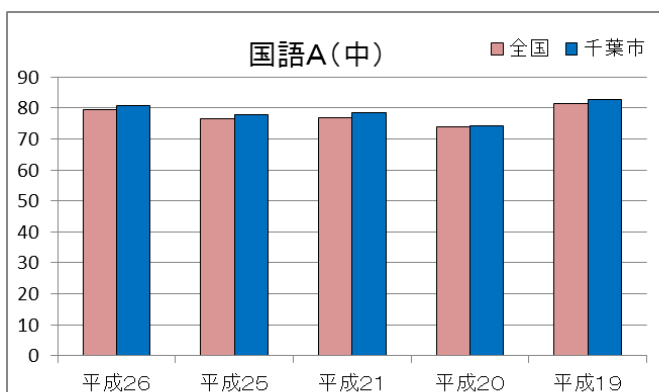
※「大都市」とは政令指定都市と東京23区。

※平成22・24年度は抽出校の調査のため経年変化には加えていない（平成23年度は東日本大震災のため未実施）。

ア 小学校（横軸：悉皆調査実施年度、縦軸：平均正答率）〔全国・千葉市〕



イ 中学校（横軸：悉皆調査実施年度、縦軸：平均正答率）〔全国・千葉市〕

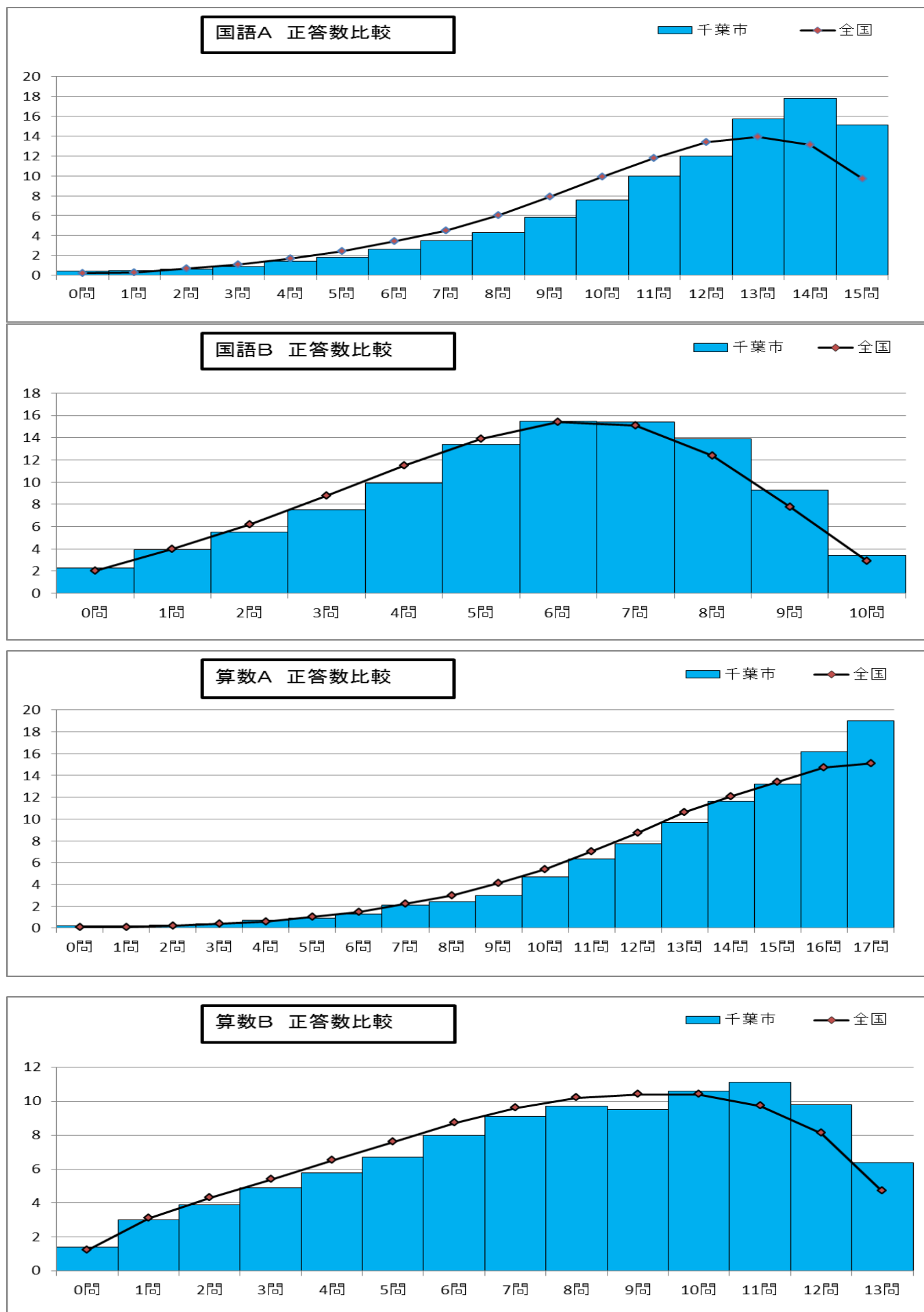


- ①千葉市の小学校6年生、中学校3年生は、国語、算数・数学、いずれの教科・問題区分（A・B問題）においても、全国（公立）・千葉県・大都市の平均正答率を上回れる。
- ②千葉市の小学校6年生：国語A問題を除いて、小学校6年生・中学校3年生ともに、A問題（知識）より、B問題（活用）の方が、全国（公立）の平均正答率を大きく上回れる。
- ③平成19年度からの悉皆調査実施4回との経年比較から判断しても、本市の結果は概ね良好の状態を維持していると考えられる。

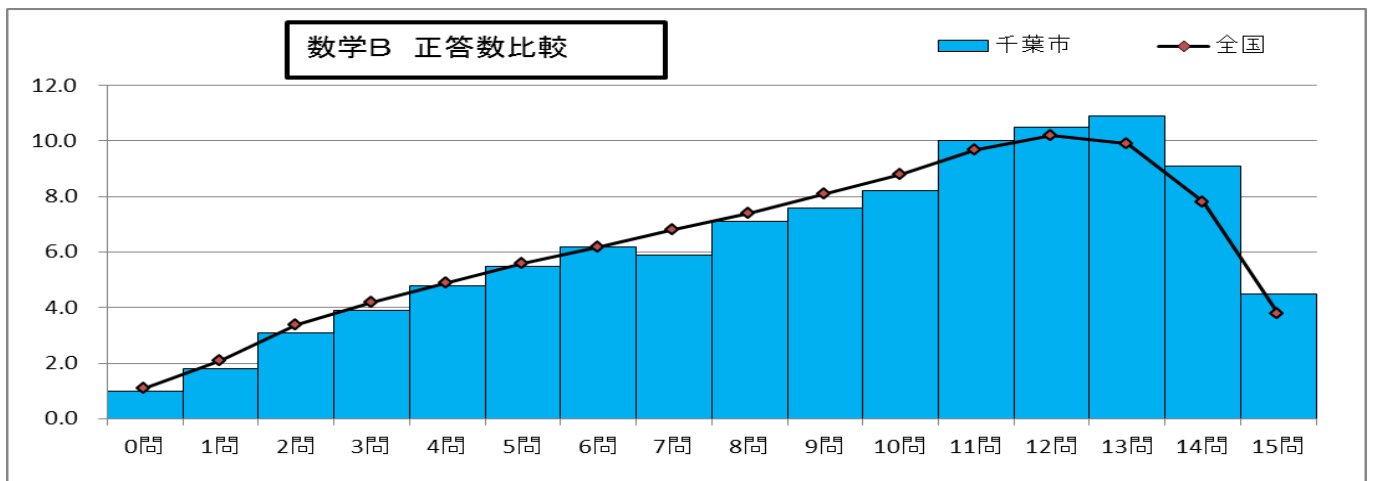
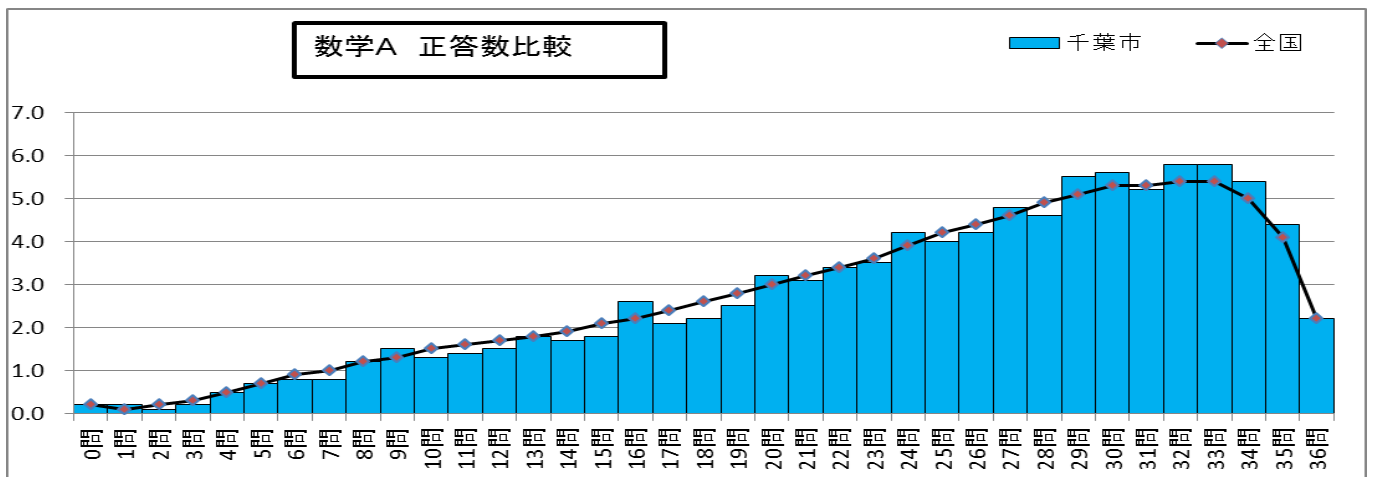
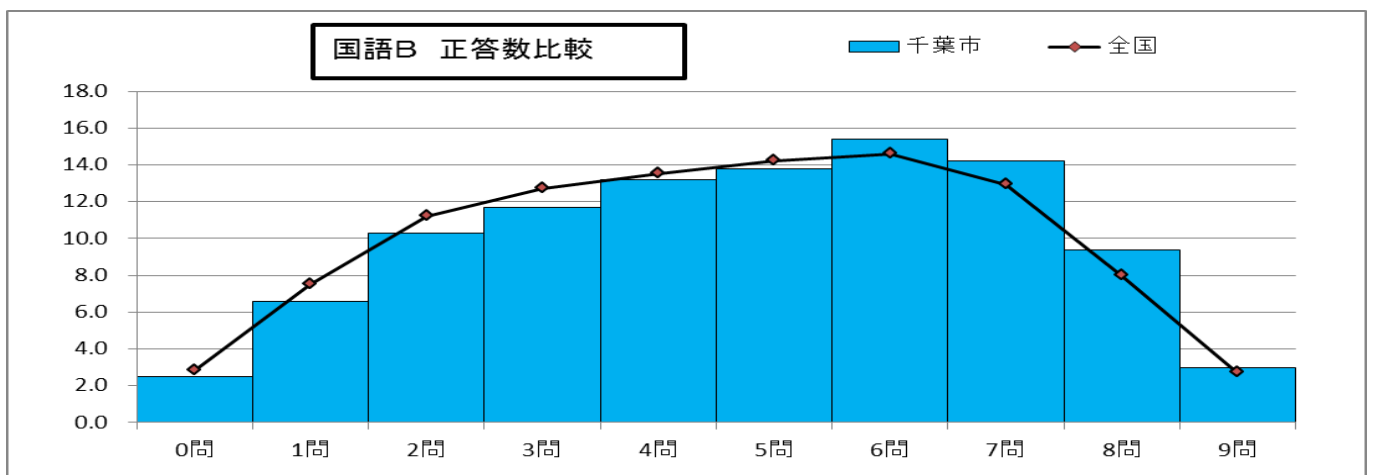
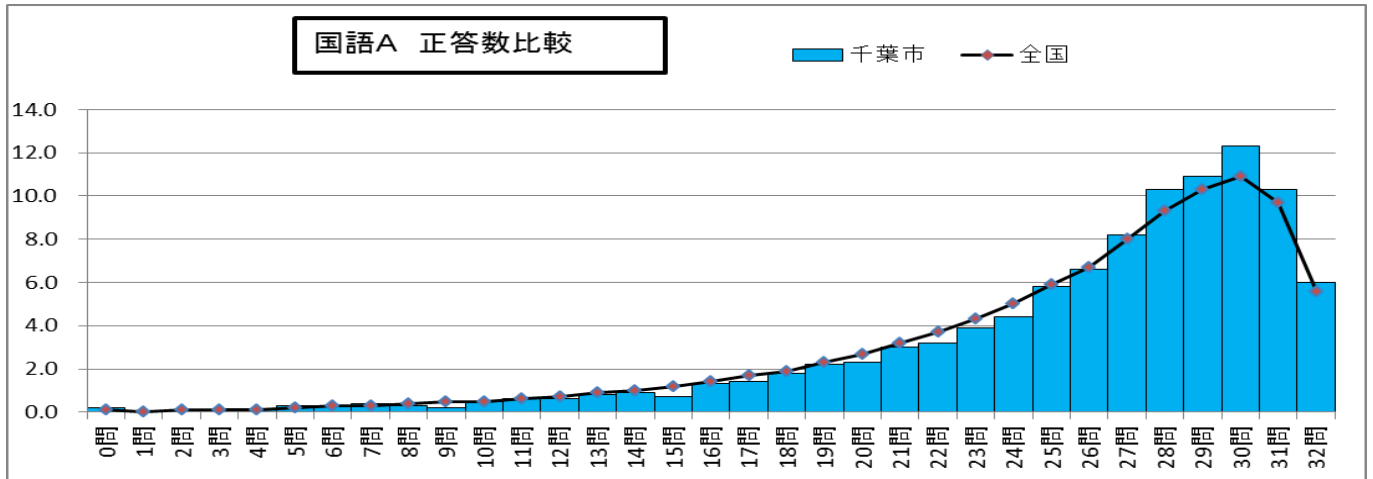
(2) 正答数の分布（全国との比較）

【資料2】正答数分布（横軸：正答数、縦軸：人数の割合）〔全国・千葉市〕＜本年度＞

ア 小学校



イ 中学校



①小学校

< A 問題 >

- ・国語・算数ともに、本市の状況を全国と比較すると、正答数の多い児童数が多くなっていることが特色としてあげられる。
- ・正答数の少ない児童数の割合は全国とほぼ同数であり、分布傾向も同様である。
- ・上記２者の間にいる中間層の児童数は少なくなっており、正答率の高い児童の多さとともに、平均正答率が高い要因となっている。

< B 問題 >

- ・国語・算数ともに、本市の状況を全国と比較すると、A問題と同様に、正答数の多い児童数が多いことが特色であり、正答率が高い要因となっている。
- ・A問題と比較すると、正答数の多い児童層が薄くなり、逆に正答数の少ない児童層と中間層が厚くなっており、平均的な分布となっている。これは全国同様の傾向であるが、千葉市でもその改善が課題である。

②中学校

< A 問題 >

- ・国語・数学ともに、全国と同様の分布傾向であるが、中学校でも正答数の多い生徒層が厚くなっており、平均正答率を高める要因である。
- ・全国と同様の傾向ではあるが、数学は国語と比較すると、正答率の低い生徒層と中間層が厚くなっており、その改善が課題である。

< B 問題 >

- ・国語・数学ともに、本市の状況を全国と比較すると、A問題と同様に、正答数の多い生徒数が多いことが特色であり、正答率が高い要因となっている。
- ・国語では、A問題と比較し、B問題で正答数の多い児童数が減少し、逆に正答数の少ない児童層と中間層が厚くなる。全国と同様の傾向であるが、「活用」力の全体の底上げが課題である。
- ・数学も国語と同様の傾向があるが、分布は正答数の多い生徒から少ない生徒まで平均的な分布であり、中間層が若干薄くなっている点に課題がみられる。

(3) 平成25年度・平成26年度の比較から

①市内学校A・B問題平均正答率の相関グラフ

【資料3】市内各学校別：A・B問題学校別平均正答率の相関分布表

(平成25・26年度比較) [中心座標はA・B問題の全国平均正答率を示す]

第1群：A・B問題共に全国平均正答率を上まわった学校

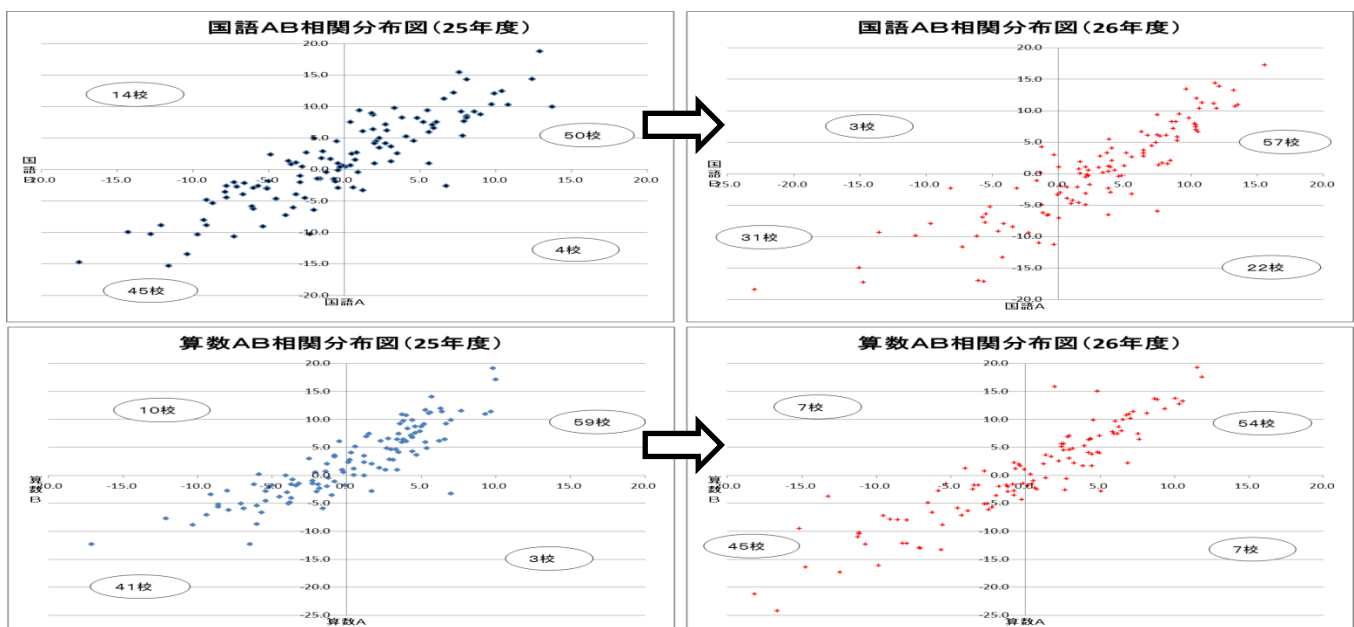
第2群：A問題は全国平均正答率を下まわったが、B問題では全国平均正答率を上まわった学校

第3群：A問題は全国平均正答率を上まわったが、B問題では全国平均正答率を下まわった学校

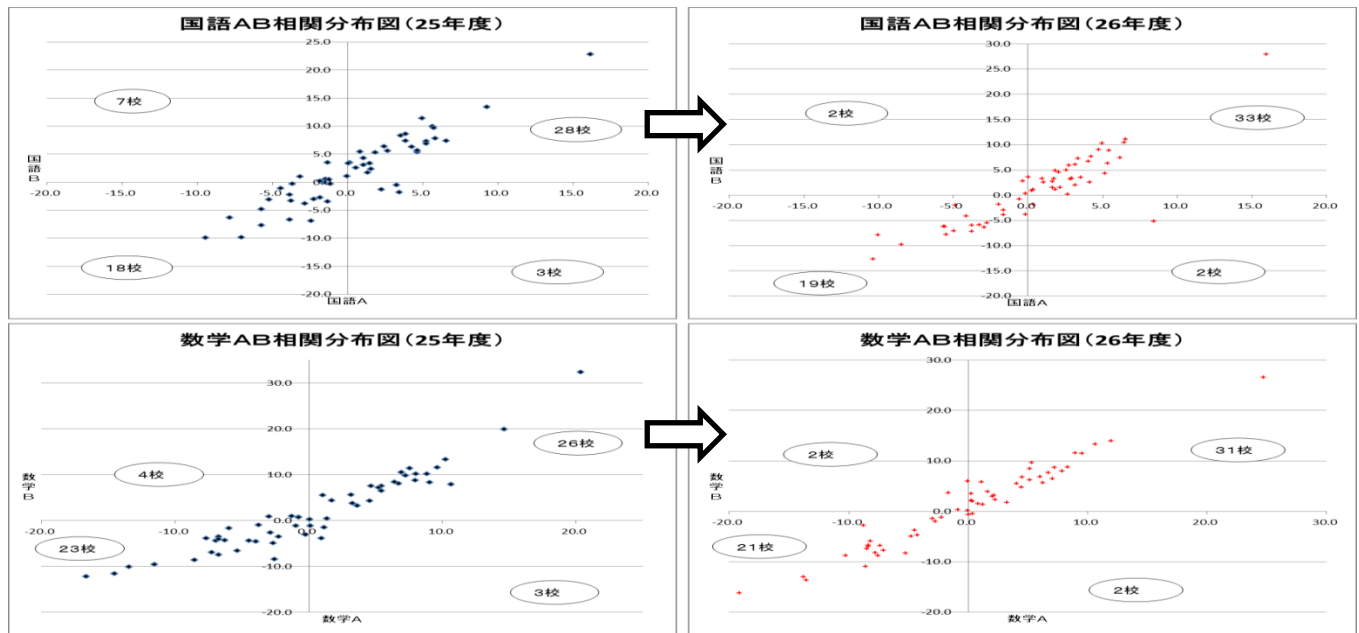
第4群：A・B問題共に全国平均正答率を下まわった学校

第2群	第1群
第4群	第3群

ア 小学校



イ 中学校



<資料3「相関グラフ」から>

①小学校

- ・各学校におけるA・B問題の平均正答率の分布から、基礎的な知識の定着と活用力との関係には相関が強くあることが分かる。
- ・平成26年度は前年度と比較すると、A問題（知識）に比べB問題（活用）が正答率に課題を持つ学校が増えており、全体的な学校間の学力差が広がっている傾向が見られる。

②中学校

- ・小学校同様、A・B問題の平均正答率の分布には、強い相関関係が存在することが分かる。各学校においては、基礎的な知識の定着を図ることが、応用力の育成の基盤となることを認識し、学習指導の改善に取り組むことが重要である。
- ・両年度とも、国語と比較した各学校間の数学の学力差は大きく開いていることが分かる。成果をあげている学校の指導法の共有などの対応が求められる。

【資料4】全国平均正答率との差異からみる各学校の経年推移（平成25年度との比較）									
ア 小学校（条件該当学年生徒数が40人以下の学校については調査母体による影響が顕著となるため公表しない）									
（推移数値）									
↗ 向上		↗ やや向上		空欄 大きな変化がない		↘ 低下			
学校名	国語A	国語B	算数A	算数B	学校名	国語A	国語B	算数A	算数B
新宿	↗				西小中台	↗			↗
本町	↗	↗		↗	さつきが丘東		↘		↘
寒川				↘	北貝塚	↗			
登戸	↗	↗	↗		幕張西		↘		↘
院内		↘		↘	草野				↘
蘇我	↗				千城台東	↘	↘	↗	
都	↗		↗		幸町三	↗	↗		
都賀	↗	↗			高洲三	↗	↗	↗	↗
検見川	↗				千草台東	↗	↗	↗	↗
稲毛	↗	↘	↗	↗	高浜一		↘	↘	↘
園生	↗			↗	作新	↗		↗	
若松		↘		↘	みつわ台北			↘	↘
大森			↘		誉田東				
稲丘					千城台旭	↗	↘		↘
花園		↘	↘	↘	柏井			↗	
犢橋	↘	↘		↘	みつわ台南		↘	↘	↘
幕張			↗	↗	幕張南		↘		
長作		↘	↘	↘	都賀の台	↗			↘
生浜	↘	↘	↘	↘	上の台		↘		
誉田	↗	↘			磯辺三				
轟町			↗		源		↘	↘	↘
鶴沢	↗	↗			朝日ヶ丘			↗	
平山	↗	↗	↗	↗	生浜東	↗	↘		
松ヶ丘		↘	↘	↘	泉谷		↘		↘
白井				↘	土気南				↘
宮崎		↘			西の谷		↗	↗	↗
緑町	↗		↗		小谷	↗		↘	↘
川戸	↗				大椎		↘		
山王		↘	↘	↘	有吉				
小中台			↗	↗	打瀬				
大宮		↘			金沢		↘	↘	↘
小倉	↗		↗		あすみが丘		↘		↘
千草台	↗	↗	↘		扇田	↗			
稲毛二		↘	↘	↘	瑞穂				
あやめ台	↗	↘	↘	↘	海浜打瀬				
星久喜			↘	↘	おゆみ野南	↗	↘		↘
幕張東	↗			↗	花島		↘	↘	↘
幸町一		↗			美浜打瀬	↗			
土気	↗	↗	↗	↗	高洲	↗	↗	↗	
桜木		↘		↘	真砂東		↘		
宮野木	↗				真砂西	↗			
生浜西	↗	↗	↗		高浜海浜				↘
こてはし台	↗		↗		磯辺		↘	↗	↗

イ 中学校（条件該当学年生徒数が80人以下の学校については調査母体による影響が顕著となるため公表しない）									
（推移数値）									
↗ 向上		↗ やや向上		空欄 大きな変化がない		↘ 低下			
学校名	国語A	国語B	数学A	数学B	学校名	国語A	国語B	数学A	数学B
加曽利	↘	↘	↘	↘	幕張西			↘	↘
末広					都賀	↗			
葛城	↗	↗		↗	千城台南		↘		↘
椿森	↗		↗	↗	みつわ台			↘	
緑町			↗	↗	緑が丘	↘		↘	↘
小中台			↗		天戸				
花園		↘			若松				↘
新宿	↗	↗	↗	↗	幸町二	↘	↘	↘	↘
蘇我					山王				
幕張					朝日ヶ丘	↘	↘	↘	↘
生浜			↘		貝塚	↘	↘	↘	↘
誉田		↘		↘	泉谷	↗		↗	
轟町				↘	幕張本郷				↘
松ヶ丘	↗	↗	↗	↗	土気南				
稲毛		↘		↘	打瀬			↘	↘
花見川一	↗	↗	↘	↘	有吉		↘	↘	↘
千城台西					大椎	↘		↘	↘
こてはし台	↘	↘		↘	真砂				↘
高洲一	↗	↗	↗	↗	おゆみ野南		↘		
さつきが丘	↗		↗	↗	磯辺			↗	↗
草野		↘	↘						

＜資料４「各学校の経年推移（平成２５年度との比較）」から＞

- ・出題問題が毎年異なること、調査母体の児童生徒の実態が異なること、測定できるのは学力の特定の一部であり、経年推移は単なる傾向を表したものである。今後数年の推移を見守っていく必要がある。
- ・小学校６年生、中学校３年生ともに、平均正答率は、全国平均を上まわっているものの、平成２５年度との比較に注目すると、全国平均正答率との有意性から、特に国語Ａ、算数Ａ問題に向上の傾向がみられ、各学校の推移に反映されている。

【資料５】平均正答率の顕著な向上が見られた主な学校の取組事例

＜平成２５年度との経年推移の比較から＞

- ・顕著な向上の見られた学校では、以下のような取組が報告されている。

ア 小学校

幸町第三小学校	・朝学習：毎日「天声人語」筆写の継続 ・教師の指導の充実に取り組む（校内研修の充実）
登戸小学校	・思考を重視し、自力解決と交流場面を取り入れた授業
幕張小学校	・５校時前の１０分間「学力アップタイム」による基礎学力定着 ・少人数指導教員を高学年に配当
小倉小学校	・国語：視写の実施：集中力向上 ・算数：昼学習～「かけ算九九の歌」を放送で流して定着 ・朝ドリルタイム（週１回）、「算数道場」全校体制での指導徹底
高洲第三小学校	・言語活動充実を図っている ：保護者協力による読み聞かせ・読書タイム・家庭での音読のすすめ ・地域の学校教育への支援の熱心さ
千城台北小学校	・国語：読書の充実 ・算数：チャレンジタイム強化（担当以外もＴＴで参加して指導） ・学力向上サポーター配置が奏功
花見川第一小学校	・校内で書く力を中心に研究を継続

イ 中学校

葛城中学校	・国語・数学：継続研究の成果（書く・考える指導の継続） ・教科部会充実（ベテランから若手へ指導技術の伝達が充実）
幸町第一中学校	・授業力向上（全教科研究授業に取組） ・朝読書・朝ドリルの継続的な取組 ・子どもが主体的に学習に取り組むための授業改善
高洲第二中学校	・４年前から全校で継続する「話し合い活動」重視の授業の取組 ・「学校が楽しい」との回答率高～学校生活への満足度が高い
土気中学校	・数学：根拠を言葉で説明する等による授業改善の取組 ・落ち着いて前向きに授業・学校生活を送る生徒達の状況
松ヶ丘中学校	・安定した当該学年の学校生活と学習への取組 ・地域・学校行事に積極的参加（例年）

＜資料５「顕著な平均正答率の向上が見られた学校の取組」から＞

①小学校で有効性の認められる取組

- ・全校をあげた言語能力向上のための継続した取組（朝学習や昼学習の運営の工夫）
- ・教師の指導力の向上に向けた実効ある職員研修の推進
- ・学校教育への家庭・地域の支援体制の充実
- ・チームティーチング等の配置等による学習支援の重点化の工夫 等々

②中学校で有効性の認められる取組

- ・生徒が落ち着いて生活・学習に取り組める学校環境安定化の取組（学校生活満足度向上）
- ・習熟度別学習の積極的な導入による個に応じた指導の工夫
- ・学校職員体制の活性化を通じた授業力向上の取組
- ・全校・教科による「活用」力向上のための継続した学習改善 等々

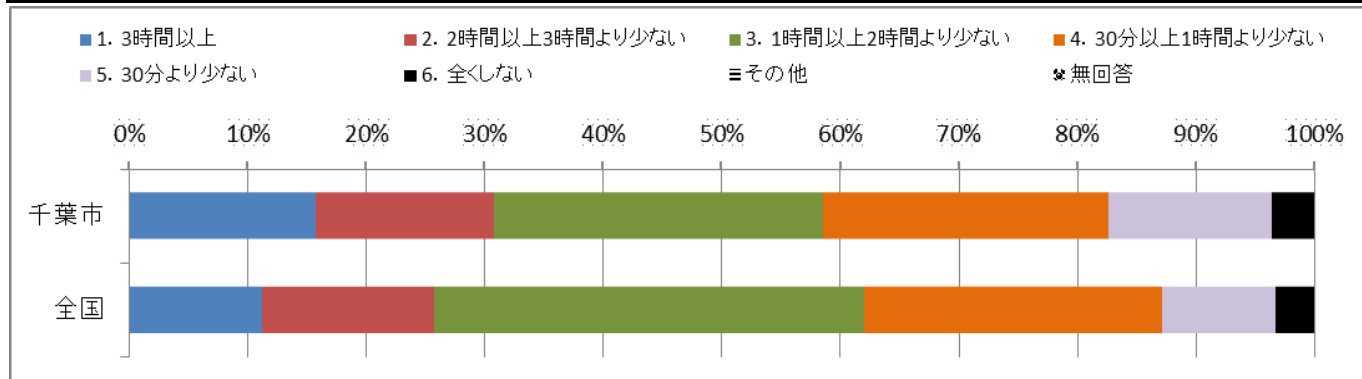
3 質問紙調査結果概要 (本市における特徴的な傾向)

【資料6】児童生徒質問紙調査より〔全国・千葉市〕＜本年度＞

ア 小学校

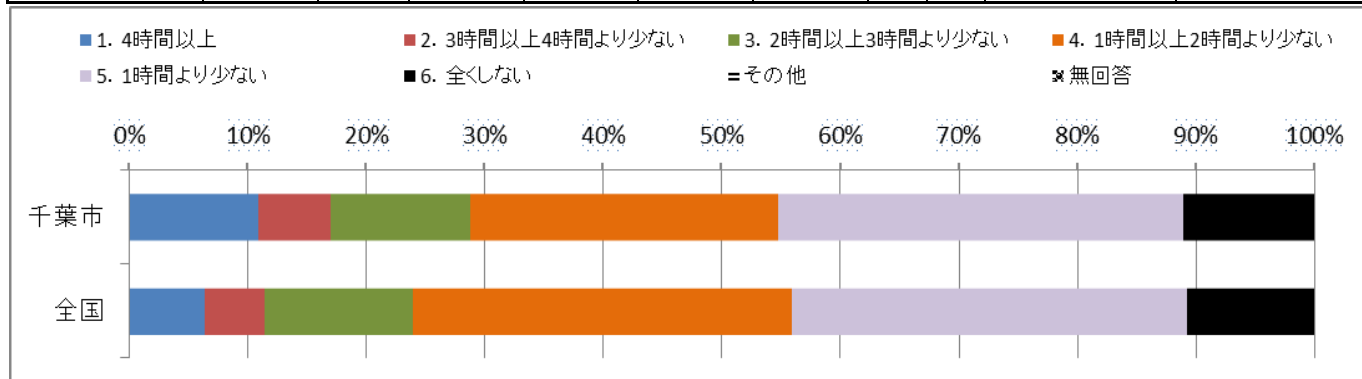
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
千葉市	15.8	15.0	27.8	24.1	13.7	3.6			0.0	0.0
全国	11.2	14.6	36.2	25.2	9.5	3.2			0.1	0.0



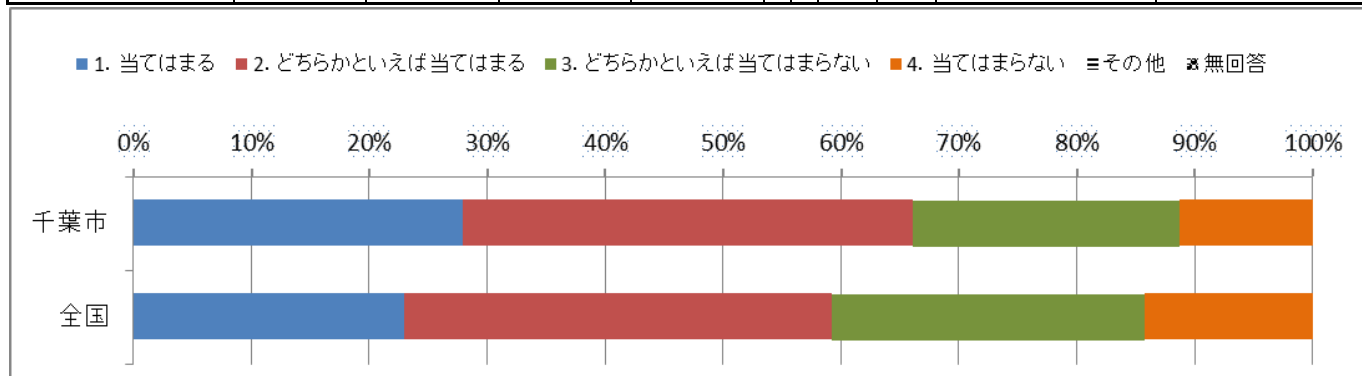
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
千葉市	10.9	6.1	11.8	25.9	34.2	11			0.0	0.0
全国	6.4	5.1	12.5	31.9	33.4	10.6			0.1	0.0



国語の勉強は好きですか。

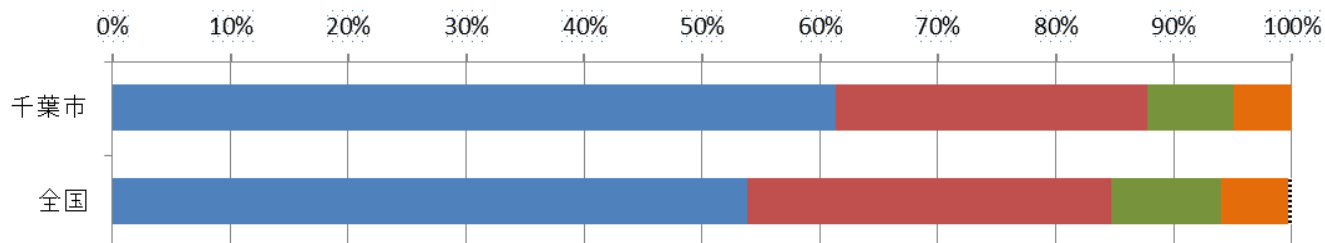
選択肢	1	2	3	4	7	8	その他	無回答
千葉市	27.9	38.2	22.6	11.1			0.1	0.1
全国	22.9	36.3	26.5	14.1			0.1	0.1



テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）。

選択肢	1	2	3	4		7	8	その他	無回答
千葉市	61.3	26.4	7.3	4.8				0	0.2
全国	53.8	30.9	9.3	5.7				0.1	0.2

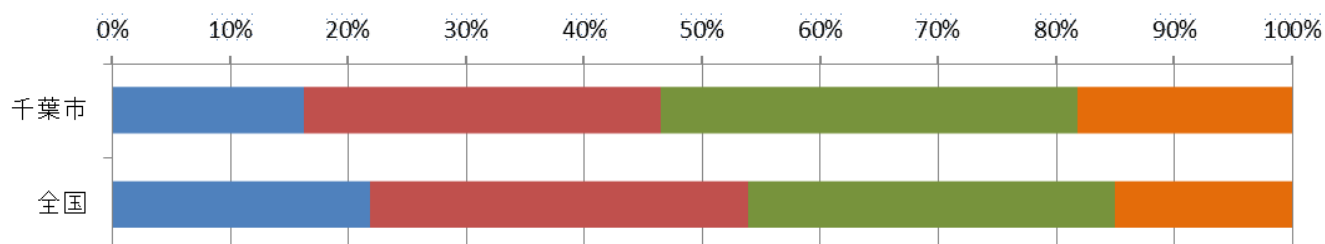
■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば当てはまる ■ 3. どちらかといえば当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答



家で、学校の授業の復習をしていますか。

選択肢	1	2	3	4		7	8	その他	無回答
千葉市	16.3	30.2	35.3	18.1				0	0.1
全国	21.9	32.1	31.1	14.9				0.1	0

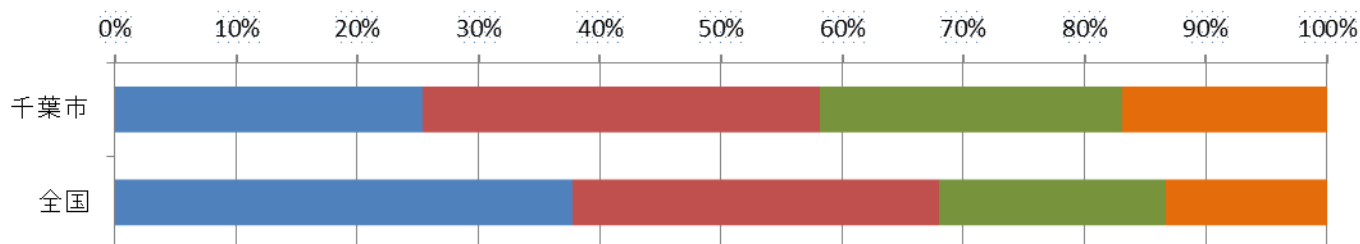
■ 1. している ■ 2. どちらかといえばしている ■ 3. あまりしていない ■ 4. 全くしていない ■ その他 ■ 無回答



今住んでいる地域の行事に参加していますか。

選択肢	1	2	3	4		7	8	その他	無回答
千葉市	25.4	32.7	25	16.8				0	0.1
全国	37.7	30.3	18.7	13.2				0.1	0

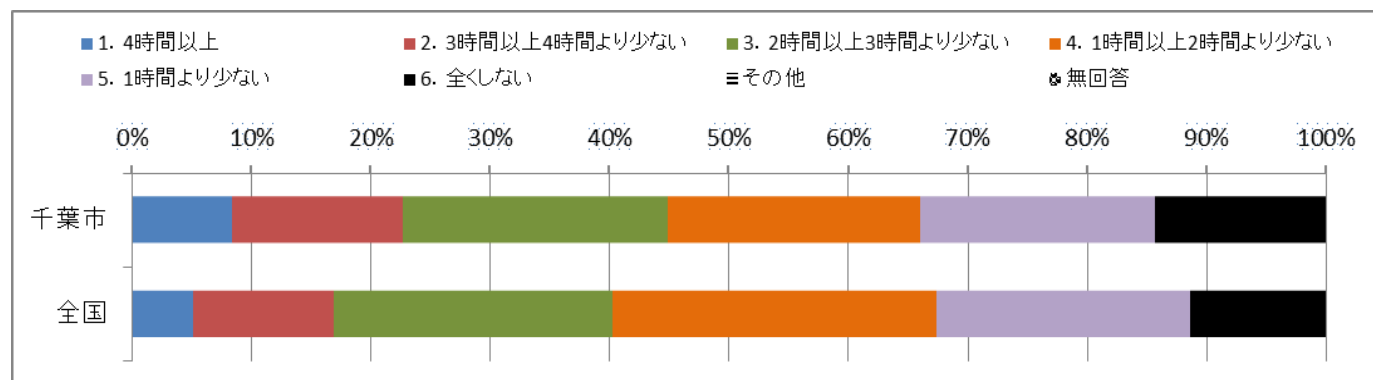
■ 1. 当てはまる ■ 2. どちらかといえば当てはまる ■ 3. どちらかといえば当てはまらない ■ 4. 当てはまらない ■ その他 ■ 無回答



イ 中学校

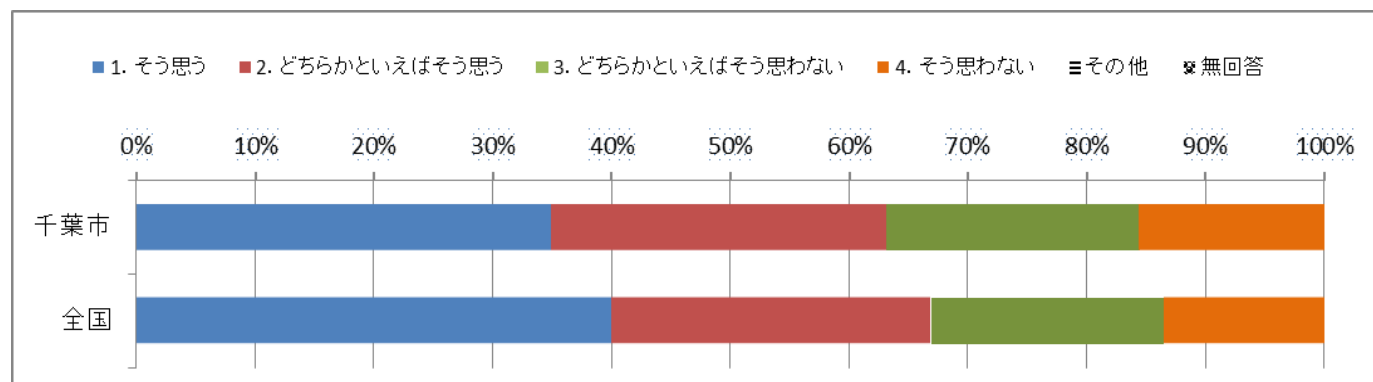
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無回答
千葉市	8.4	14.3	22.3	21.1	19.7	14.1			0.1	0.1
全国	5.2	11.7	23.4	27.1	21.2	11.3			0.0	0.1



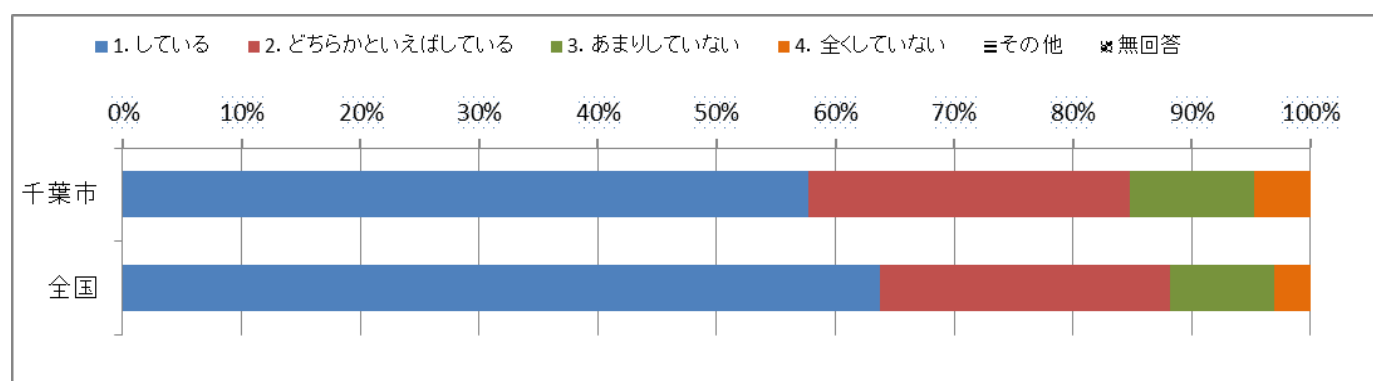
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか。

選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	34.9	28.3	21.3	15.4					0.0	0.2
全国	39.9	26.9	19.6	13.4					0.0	0.1



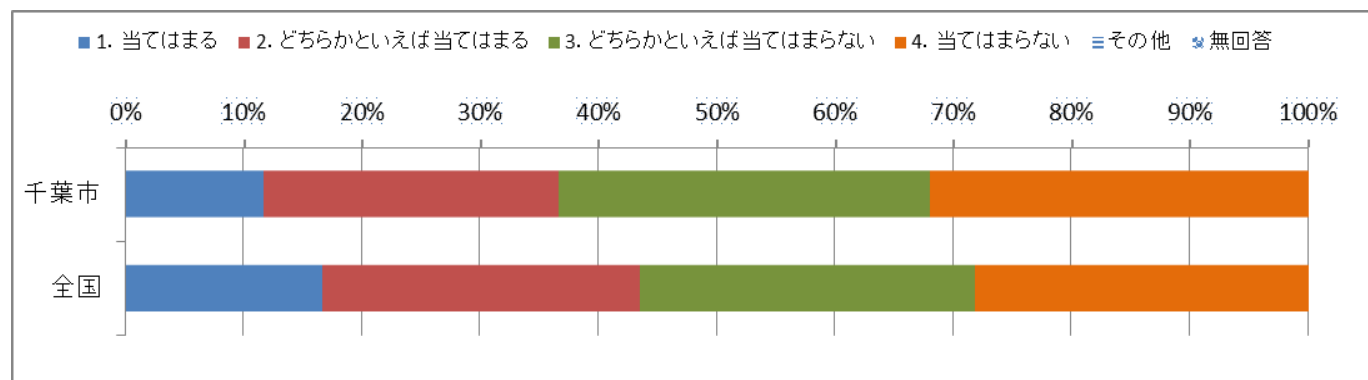
家で、学校の宿題をしていますか。

選択肢	1	2	3	4					その他	無回答
千葉市	57.7	27.1	10.5	4.5					0.1	0.1
全国	63.7	24.5	8.7	3.0					0.1	0.0



今住んでいる地域の行事に参加していますか。

選択肢	1	2	3	4		7	8	その他	無回答
千葉市	11.6	25.0	31.4	31.9				0.0	0.1
全国	16.6	26.9	28.3	28.1				0.0	0.1



(1) 小学校

- 「1日あたり2時間以上勉強する」「土曜日や日曜日などの学校が休みの日に1日あたり3時間以上勉強する」と回答した小6児童の割合は、前者で5.0ポイント、後者で5.5ポイント全国より高く、学習に対しての意識が高いことが平均正答率の高い要因の一つとなっていると考えられる。
- 「国語が好き」と回答した小6児童の割合は、全国より5.0ポイント高く、小学校における国語を中心とする言語活動の充実が、今年度の国語A問題で高い平均正答率を示した背景となっていると考えられる。
- 「テレビのニュース番組やインターネットニュースをよくみる」と回答した児童は全国よりも7.5ポイント高く、社会的な関心が高い傾向が読み取れる。
- ▲「家で学校の復習をしている」と回答した小6児童は、全国より5.6ポイント低い。家庭において目的をもって復習をする習慣を定着させるなど、平均正答率の更なる向上につなげる方策を考えていく必要がある。
- ▲「今住んでいる地域の行事に参加しているか」に当てはまると回答した児童は、全国より12.3ポイントも低く、住民自治推進の観点からも地域と児童との乖離が課題である。

(2) 中学校

- 「学校が休みの日に1日あたり3時間以上勉強する」と回答した中3生徒の割合は、全国より5.8ポイント高く、小6児童同様に学習に対する高い意識が、平均正答率を押し上げる要因の一つであると考えられる。
- 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことが難しいと思う」と回答した中3生徒は、全国より6.0ポイント低いことから、国語での言語活動を重視した学習の成果が、平均正答率の高い生徒数をもたらしていると考えられる。
- ▲「家で学校の宿題をしている」と回答した中3生徒は、全国より6.0ポイント低い。基礎学力の更なる定着に向けて、宿題のあり方を含めた検討と工夫が必要であろう。
- ▲「今住んでいる地域の行事に参加しているか」に当てはまると回答した生徒は、全国より5.0ポイント低い、小学校より大幅に改善され地域自治の意識が高まる傾向がある。

4 今後の対応

- (1) 教育委員会においては、引き続いて結果の詳細な分析を行い、学校における学習課題改善に資するデータと今後の学習指導改善の方向性やポイント等を各学校に示すことで、あらゆる機会を通じて各学校の指導改善に向けた指導・助言を行い、教職員の指導力向上を支援していく。
- (2) 学校においては、調査結果を分析して授業改善に生かし、一人一人の児童生徒にとって「わかる授業」を一層進め、確かな学力の育成・定着を図る。
- (3) 家庭においては、規則正しい生活や家庭学習の習慣を身に付けるなど、児童生徒の望ましい生活習慣の育成に努める。